

## 令和5年度 学校関係者評価 令和6年度へ向けた改善方策

令和5年度学校関係者評価アンケート結果(5・6年生児童、全学年保護者、地域関係者)、関係者評価委員会からの提言を受け、令和6年度の学校運営に関する改善方策を報告いたします。以下上段は学校関係者評価委員会からの提言、下段(赤字)を改善方策として記載します。

### アンケート結果の特徴より評価委員会提言

#### 1) あいさつをすすんでいる態度について

児童(5・6年生対象)アンケートは、「A とても思う」「B 思う」の合計が、令和4年度対比+15.8(66.7%→82.5%)と実感しているようである。保護者アンケートでは+5.8%(59.2%→64.6%)と上がり、少しはよくなっていると思われる。また、あいさつキャンペーンに参加している学校運営委員からも「挨拶をするようになったと実感があります」と感想があった。

しかし、教員からは、「児童がすすんであいさつをしているか」と問われると、57.1%が「C あまり思わない」「D 思わない」「E わからない」と答えている。まだまだ、習慣付けを図る必要がある。コミュニケーションの扉として、挨拶する習慣を自律的に身に付けられるよう家庭と学校、地域で児童を育てていきたい。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

令和5年度の5・6年生のアンケートの結果は+15.8と大幅に改善し、児童の「あいさつ」への意識は高まったことが成果である。しかし、保護者の結果は改善したとはいえ、依然高い数値とは言えない。月に1回1週間行っている「あいさつキャンペーン」への参加を投げかけるなど、児童と共にあいさつの輪が広がるようにしていく。職員に関しても同様に、あいさつキャンペーンへの参加をできるように、児童看護体制を整えると共に、「率先垂範」の意識を高め、まずは大人からあいさつをすることにより、日頃からのあいさつの励行を推進する。「あいさつ・返事・お礼の言葉」の合い言葉は、令和6年度も引き続き児童、保護者、地域に発信し、改善できるようにしていく。

- あいさつキャンペーンの充実
- 「あいさつ・返事・お礼の言葉」の定着
- 教職員による率先垂範
- 計画委員会・委員長会議(名称仮)によるあいさつの輪を広げる運動
- PTA、おやじの会、保護者への協力依頼

#### 2) ホームページ更新について

日々、ホームページを更新していることは大いに評価できる。地域に対して、ホームページの周知を図るとともに、学習材を地域施設、地域企業、地域居住者に求め広げていく。児童の学習に地域が関わっていけば、自然と地域のホームページの閲覧を高まっていくであろう。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

毎日1回以上は、学校日記の更新を行ったことにより、閲覧数が上がり、保護者や地域に、子どもたちの頑張りや成長した様子を紹介することができた。来年度も子どもたちを褒めるきっかけや、家庭での話題の材料となるようにホームページの充実を図っていく。

- 各学年・専科で週に1回の学年の児童に関する記事の更新。
- 管理職や ICT 担当を含め 1 日最低1回は児童に関する記事と給食について更新する。
- 学校便りに二次元コードを添付して閲覧しやすくする。
- 本校の重点目標3 地域と協働した教育を今後も推進し、その様子を HP でも掲載する。

### 3) キャリア教育・学び舎について

キャリア教育を通して、進路指導、職業体験のみではなく、「なりたい自分 Well-being」として、夢をもって努力することの大事さを考えさせていきたい。

学び舎を通して、学習内容や行事など、密になる中、学校として、みしまの森児童・生徒合同会議の他に、学年交流を模索している。しかし、小1ギャップ、中1ギャップの適応できない状態をなくし、スムーズに幼稚園、保育園から小学校の生活へ、小学校の学び方から中学校への学び方へと入れるように連携を図っていく。

また、児童が地域に根差した生活、地域をよりよくしていこうとする心情を育てるための「幼保・小・中」の学びの継続性を太くしていく。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

各種行事、幼保小交流、異学年交流、日々の学習等全てがキャリア教育につながるという職員の意識改革のもと、キャリアパスポート等を活用し、せたがや未来・デザイン教育を推進していく。

- キャリアパスポートの更なる活用
- 幼保小交流の継続
- あいさつ運動、学び舎生徒会以外のみしまの森学舎東深沢中生徒と児童の直接交流の機会を作る。
- 保護者や地域の方々をゲストティーチャーとしたキャリア教育を6年生で行う。ご自身の勤務される職業について子どもたちに、その内容ややりがい等について講義していただく授業を行う。
- アプローチ・スタートカリキュラムを活用して幼保から小への滑らかな接続を推進する。

### 4) 体力づくりについて

運動する習慣がある児童と習慣がない児童との二極化が進んでいる。

反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げの運動能力が低い。瞬発力、持久力、投力において、動き方（瞬発力）、投げ方（投力）の運動経験の少なさが要因であろう。また、持久力は、持続的に学習に取り組む態度にも関連があるため、小学生から体を動かす習慣付けが必要である。

しかし、休み時間の過ごし方として、絶対に外で出す方針でない。委員会や係活動をする児童の他、読書したい児童、静かに過ごしたい児童に対しては尊重している。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

子どもたち自らが体を動かしたい。と思えるように、体育科の研究を推進したり、休み時間の体育向上の取組を充実させたりしていく。

- 校内研究の研究教科を体育とし、運動に主体的に取り組む児童の育成を図る。
- 令和6年度引き続き、短なわ・マラソン・長なわ週間等、友達と楽しみながら体力向上を図れる機会を作る。

### 5) 教科「日本語」、食育指導、図書指導において

#### (1)教科「日本語」において

外国語活動、外国語の導入により、3年生以上の指導時間が半減され、年間18時間の指導時間である。美しい日本語本語を学ぶ、世田谷区のよさだったが、今後については注視していきたい。

#### (2)食育指導について

食を食べること、運動（日常生活）すること、寝ること、排せつすることは、人間生活として、毎日行っていることである。バランスよく食べる点においては、上記の4)「体力づくりについて」とも関連させて、運動する日常化を図り、汗を

かき、空腹を感じ、バランスよく食べるという健康づくりにつなげていきたい。

### (3)図書指導において

1階のブックコーナー、2階のライブラリーと蔵書場所が2か所に分かれているのは、不便である。また、児童が読むスペース、調べ学習スペースもない。落ち着いて図書をする教室、探求的な学びをするための調べる教室の要望をしていくべきである。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

限られた時間での指導を充実させると共に、他教科等とのカリキュラムマネジメントを行い、より良い指導につなげていく

○カリキュラムマネジメントを行い、美しい日本語についての取組を充実させる。

○絵本とのコラボメニュー等を行い、食育指導を充実させる。

○図書司書と連携や、PTA サークル「とどろき絵本の国」の読み聞かせ等を行うことにより、図書指導を充実させる。

### 6)その他

保護者の回答率が WEB アンケートによる実施によって、令和4年度53.6%、令和5年度55.5%と以前より下がった。紙面アンケート並の回答率になるよう、保護者に協力を求めている。学校評価に関心をもっていただきたい。

#### ⇒令和6年度へ向けた改善策

○周知の方法を改善すると共に、PTA 役員の皆さんによる協力も得ながら、回答率の向上に努める。